

1 事業名

令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
「テンパークちゃれんじくらぶ ～ドキドキ わくわく・夏～」

2 趣 旨（事業の目的）

自然体験を通して、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティアの高校生・大学生また参加者同士の交流を通して、コミュニケーションの力を育む。

3 期 日 令和元年6月22日（土）～23日（日）

4 参加者 94名（盛岡市，滝沢市，八幡平市，久慈市，花巻市，奥州市，雫石町，矢巾町の小学3～6年生）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 内 容

（1）日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
6/22 (土)								参加者受付	はじめの会 ちゃれんじザフレンドリーゲーム！	ちゃれんじザドキドキディナー！	夕食	ちゃれんじザわくわくナイトハイク！	入浴	就寝準備	就寝	

	6	7	8	9	10	11	12	13	14
6/23 (日)	起床	洗面・準備	つどい	朝食	退所点検	ちゃれんじザオリジナル焼板クラフト！	昼食	片付け	アンケート記入 おわりの会 解散

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	工 藤 祐 幸
	企画指導専門職	松 本 博 路
	事業推進係	日比野 功 宜
指導補助	法人ボランティア	13名

（3）企画のポイント

参加した小学生が、安全に楽しく2日間を過ごすことができるように、体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生を、グループリーダーとして配置した。そして、小学生が高校生や大学生とのふれあいや体験活動を通して、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことができる機会とした。

企画立案に際しては、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プ

プロジェクト」において企画会議，事前準備を行い，活動全体を通してコミュニケーションが深まるようなプログラムを構成した。そして，それぞれの活動において，参加者同士や高校生，大学生とのコミュニケーションを図ることができるように配慮した。また，開催時期の天候が不安定なため，ナイトハイクの雨天プログラムを二段構えで準備し（館内ナイトハイク，班ごとの振り返り），混乱なく活動できるように配慮した。日程についても小学生と高校生，大学生が十分に関わることができるとともに，天候等によるプログラム変更に対応できるようにゆとりをもって設定した。

#### （４）広報のポイント

年度当初に年度の事業一覧を岩手県内全児童に配付するとともに，当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また，盛岡市，滝沢市，八幡平市，雫石町の各小学校と報道機関へは，開催要項とチラシ，ポスターを送付した。

#### （５）運営のポイント

参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように，子供たち6～7人の14班にセミナー参加者を3～4名ずつグループリーダーとして配置するとともに，統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで，子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにし，班のコミュニケーションを深め，より楽しく活動できるようにした。

また，全体での共通理解を図りながら運営に関わることができるように，階層型組織キャンプを構成し，本部ミーティング，スタッフミーティング，スライドショー撮影ミーティング，生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き，安全に留意したプログラム展開を実践した。（補足資料参照）

### 8 成果とその普及

参加した子供たちの中には，はじめは不安や緊張を感じていたところもあったが，各グループのリーダーや仲間と関わる中で打ち解け，仲良く活動を楽しむ姿が見られた。子供たちがグループリーダーに親しみをもって関わっていくことで，グループリーダーたちも次第に自信をもって，子供たちと関わるようになっていくなどの相乗効果も見られた。参加者のアンケートからも「思っていた以上に，とても楽しかったです。自分で火をおこしたり，木を焼いたり，自分たちの力でご飯を作ったりと，とてもいい体験ができてうれしいです。」「ナイトハイクはできなかったけれど，クラフトでたくさん楽しめたのでまた参加したいです。」「とても楽しかったです。他の小学校の人やお兄さん，お姉さんと仲良くなれて良かったです。」「遠いところから来た人や近くの人，初めての人と仲良くなれて良かったです。」など，一つ一つの活動も楽しいが，他の学校の人と友達になれたことや，高校生や大学生と活動したことが楽しかったという感想が多く寄せられた。活動中の様子からも，子供たちに「生きる力」として必要とされているコミュニケーション能力の向上につなげることができた。また，事業後も仲良くなった同じ班のメンバーやグループリーダーと手紙のやりとりをするなど，本事業を通じた参加者同士の交流の広がりが見られた。1泊2日という短い期間ではあるが，子供たちが十分に満足できる活動を提供できたものとする。

### 9 今後の課題

初めて参加する子供だけでなく，参加経験のある子供たちも満足することができるように，企画に携わる法人ボランティアとともに情報収集を図りながら本施設の特徴を生かした活動内容

を企画・運営していくことが大事である。また、2日目の昼食後の休憩・自由遊びの時間のねらいを明らかにした上でプログラムに位置付けることで、コミュニケーションの幅の広がりにつなげることができると感じた。



ちゃれんじ ザ フレンドリーゲーム  
(アイスブレイク)



ちゃれんじ ザ ドキドキディナー  
(野外炊事)



ちゃれんじ ザ オリジナル焼板クラフト  
(創作活動)

【補足資料】 テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

